

# ピッチクロックルール2026

## ■導入方針(2026)

・球審の左右後方に2台のタイマーを設置

・クロックルール

### ●イニング間:2分15秒

→継続した投手の場合は3アウト目が決まったと同時にスタート。

投手が交代する場合は、当該投手がファウルラインを跨いだ時点でスタート。

※投球練習は残り30秒になるまでに終了させなくてはならない。

※タイマーは残り30秒から表示する。

### ●無走者:14秒

### ●走者あり:18秒

→マウンド内で投手がボールを保有し、捕手がホームプレートの後方付近に位置したタイミングでスタート。

※打者は残り8秒の時点で打撃姿勢(リラックスした姿勢でも構わない)をとらなければならない。

※投手は残り0秒になるまでに投球動作を始めなければならない。

※投手・捕手のボール交換ができるのは残り8秒までとする。

※投手は打者が打撃姿勢をとる前にセットポジションに入ってはならない。

1回目の違反時は警告。2回目以降は自動的にボール1が宣告される。

※タイマーのリセットを目的としたタイムは要求することはできないものとする。

→靴紐が解けている、防具が外れている、スパイクの土を落とす等、審判員が選手の正常なプレーに支障をきたすと判断した場合はタイムが認められる。

→走者ありの状況で投手が投手板を外した場合、タイマーはリセットされるが牽制の回数としてカウントする。  
なお、走者なしの状況で投手が投手板を外してもタイマーはリセットされない。

### ●打者間:30秒

→全てのプレーが完全に落ち着いたであろうタイミングからスタート。

※30秒以内に投球動作を始めなければならない。

これらの時間制限を違反した場合、守備側の場合はボールを宣告。攻撃側の場合はストライクが宣告される。

### ●牽制回数の制限:同一打者に対し2回まで

※投手は3度目の牽制をしてもいいが、アウトにできなければ、ボークとする。

※暴投、捕逸その他の理由で走者の状況が変わった場合、同一打者でも回数はリセットする。

### ●タイマーの故障や人為的なトラブル等の対応について

(1) タイマーが故障等により、使用不能および誤作動が頻発した場合

・審判団および両チームとの協議により試合の進行に支障をきたすと判断した場合、以降ピッチクロックルールを一時停

止して試合を継続する。その後復旧できた場合、改めて協議を行った上で、ピッチクロックルールを再開させる。

(2) 操作者の人為的なミスが発生した場合

① タイマーを押し忘れた、または計測開始のタイミングが遅かった場合

操作の誤りに関係なく、正しく操作がされているものとして試合を続ける。

② 計測開始のタイミングが明らかに早かった場合

審判員が直ちに『タイム』を宣告して、計測担当者にシグナル等で操作ミスを伝え、出発点からのやり直しを指示する。

■設置・運用体制

- ・タイマー: 久保田運動具店(スラッガー)
- ・運用: 審判員または専任スタッフをリーグにて手配